

おお大勝利

平成 24 年度山梨サッカー部報第 1 号 (4 月 4 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

充実の山梨・埼玉遠征を終えて

3 月 28 日から 4 月 2 日にかけて、山梨・埼玉遠征に行っていました。28 日朝 7:00 に借り上げバスにて山梨を出発し、埼玉県の大宮東高校で練習試合をさせてもらった後、山梨に入りました。大宮東との練習試合では、相手は B チームであったものの、技術に秀でた選手がおり、パスを回され苦しい試合を強いられました。ただ、攻められっぱなしというわけではなく、一人二人とボールにアプローチしボールを奪いショートカウンターを繰り返す試合運びがしばしば決まり、決定的なシュートチャンスを数回得ました。しかし、チャンスをしっかりものにできるチームとそうでないチームとの差が出て、B チーム相手ながら敗れてしまう残念な結果に。とはいえ、守備におけるバランスは悪くなく、声も出ていて、そして何より新入生の**クリロンこと真論**がボランチにて落ち着いたプレーぶりを見せ、好印象。B 戦で**最上町出身のヒネキ**が脳震とうを起こし大宮東高校の顧問の先生の車で病院に担ぎ込まれ CT 検査を受けるハプニングがありましたが、検査の結果異常なしということでホッと胸をなでおろしつつ、埼玉在住の OB2 名を加えて山梨へ向かいました¹。

山梨では 29 日と 30 日が予選リーグで、31 日と 4 月 1 日が決勝トーナメント (又は交流戦) という日程。山梨は B チームも交流戦という形で参加。A と B の試合会場が異なるため、顧問今野と名和トレーナー、2 名の OB の計 4 名が交替で二つのチームに帯同。A チームの初戦は 22 年度の選手権にて旋風を巻き起こした京都の久御山！ 正直久御山は、上手いことは上手いのだが本気を出していない印象。というか、山梨東が相手を本気にさせられないでいる。実力差は 0-10 ですが、0-1 のまま試合終了目前まで粘る。しかも、惜しいシュートチャンスもあり、ベンチで名和さんと「これで訳わかんない形で同点にして 1-1 の引き分けなら、久御山はやらかしたことになるね～」と話す。そんな会話を実現させる力があればよかったのですが・・・終了目前に素晴らしい崩しから追加点を許し、0-2 で終了。

まあ相手が相手だから 2 点差でも良くやった方か、などと顧問のまとめが甘いので二日目以降の惨敗につながったか。とにかく、**二日目以降攻められない (簡単にボールを奪われる)、守れない (簡単に失点を許す)、そして元気がなくなっていく (というか始めから声が出ていなかったか) の悪循環**。自分たちに足りないこと

¹ 埼玉の病院では、CT を撮った後、「救急で患者が入ったから診察は 1 時間後になります」と看護師さんに告げられ、ただでさえ日程に遅れが生じていたため焦りつつ「これから山梨に移動なんです。大型バスが病院の前に駐車していて、40 人ほど待っているんです。」と悲しそうに看護師さんに伝えると、すぐ対応してもらいソコウで診察してくださり、1 時間ほどの遅れだけで山梨の旅館に到着することができました。言ってみるもんですね～・・・というか、看護師さんの対応に感謝です。

ばかりを意識させられた予選リーグに²。予選リーグは3連敗で大会の公式日程終了。三日目、四日目は様々なチームと交流戦を行い、反省をピッチの中で活かそうと何とか努力しておりました。

さて、**Aチームが不甲斐ない時ほど、Bチームがチームを（そして顧問を）勇気づけてくれるのが今までの山東**。しかし、二日目、Bに帯同した名和さんと究君の話によれば、一体感がなく試合前のアップからヤル気が感じられない、特に新3年生は自分が何をやりたいのかよく考えた方がいい、という厳しい報告を受けている。三日目はBチームに帯同し、試合開始2時間前からしっかりアップを行う。雨が降り服が濡れる環境にありながら、熱心に体を動かすBのメンバー。名和さんと究君による前日の指摘に素直に耳を傾けた結果か。顧問今野も元気に声をかけ続けましたが、OB康生君も声をかけて現役生にどんどん関わってくれる³。そんなアップの後に行われた國學院栃木Bとの交流戦では、劣勢を強いられながらも、**中盤のダイナモ松本さんによる「誰もが（本人すらも）意表を突かれたスーパースループス」**に反応して外側から抜け出したユウダイが、飛び出したGKを交わしてゴールネットを揺らす。寒いけど熱いゴールに、**ユウダイは万歳で喜びを表す**。いや～、ユウダイの万歳は今大会、最も印象的なシーンでした。その後、**ナオトの25mビューティフル・ルーフシュート**も決まり、今大会唯一の勝ち点をゲット。**やはり、一体感をもって戦う姿は観る者を熱くさせる！** 技術的にはAよりも稚拙でパワー・スピードともにAに及びませんが、Bの持ち味を十分発揮した戦いでした。四日目、Bは日程終了後、二人のOB含めミニゲーム合戦を楽しみました（その後の集合写真は山東サッカーOB会HP上でご確認ください）。

4月2日は山梨から移動し（移動自体は前日）、東京都の強豪成立学園のBチームと成立学園鷺宮グラウンド（天然芝）にて練習ゲームをさせてもらう。成立学園は元JEFの関係者が学校経営・サッカー部の指導に携わっており、**かつてJEFのチームドクターをされていたこともある矢吹先生の紹介**でこういう機会を頂くことに。相手のプレッシャーが弱い時には落ち着いてプレーし、強い時には素早いプレーが求められる、その見極めの状況判断においてまだまだ甘さが見られましたが、元気印ヤマトがケガ明けで復帰したことなどからチームに活気が見られる。山梨では見られなかった活気のある選手の光景。というか、**山梨での不甲斐ない戦いの反省がようやく少しずつ生きてきた**、ということか。特に、ポッパーことリョウが、康生君から大会当初に指摘された「楔のボールへ厳しく寄せること」を実践するプレーで、敵の攻撃を寸断。一定の成果を感じることができた最終戦となりました。その後は、ピッチの周りをお借りして、最後のフィジカルトレーニング。最高の環境、最高の天気の下、充実の日々を過ごし、山形への帰路につきました。

² ただし、二日目終了後行われたOB康生君ご指名のトレーニング「坂道ダッシュ」では、声は出るは自分を追い込む走りをするは（ハマジは追い込み過ぎて途中リタイア）で、とても元気にトレーニングを実施することができました。それはそれでうれしいのですが、**サッカー選手なのだからサッカーやっている時が一番元気であってほしい**と思うのですが（走りのトレーニングでヤル気がなくなるともダメですが）・・・。

³ 康生君にしろ究君にしろ、今回とても良いOBに帯同してもらいました。現役生の中で将来OBの立場で遠征に参加するのは誰になるのでしょうかね～。ちなみに、私も大学生の時、OBとして参加したのですよ（その時のサッカー部顧問は、大沼先生（現教頭先生）、晃先生（本校サッカー部OBにして新2年マネのお父様）でした）。

振り替えればこの遠征で、サッカー自体 (On the Pitch) も、サッカーを離れた生活面 (Off the Pitch) でも、自分たちの甘さを自覚することができました。サッカーでは、**自分たちの普段のサッカー環境が甘いということ、そして環境の甘さがフレーの甘さにつながっているということ、甘さの克服のためには普段の練習における姿勢が何より重要であること**、これらのことを実感できました。これまで、練習にてハイ・プレッシャーを作り出せず、ボールへのアプローチ・球際の競り合いに甘さがあったため、**技術的な基礎の部分でミスがあっても通用していたが、上のレベルでは全くそれが通用しない**こと。また、前 (相手ゴール方向) を向けない苦しい体勢でボールを保持していても、二人目三人目の寄せがこれまで甘かったため、ちょっとボールを持てる選手はドリブルし続けることができ、「**持ち過ぎ**」が許される (それでも結果としてうまくいく) 状況にありましたが、これも上のレベルでは全く通用しないこと。それらの克服のため、**ハイ・プレッシャーを作るハードワークが必要なことは当然として、地味な練習で培われる基礎的な技術、そして冷静な判断力を養うことがとてつもなく重要だ**ということ。また、**シュートを打ったら詰める、打たれても詰める**という、**小学生でも習うことを当たり前のように実行することが重要だ**ということ。以上のことを選手が痛感できた、今回の遠征でした。

生活面 (Off the Pitch) でも、荷物の整理整頓がなっていなかったり、バス運転手の方へのあいさつを忘れる選手がいたり、決められた時間を守れなかったり、といった、普通の規律が求められる強豪チームではあり得ない状況に自分たちがあることを痛感させられました。**サッカーでも、サッカー以外でも、当たり前のことを当たり前にする癖が一たびつけば、何ということはないんですがね**⁴。指導者の問題ですね。

今回の遠征、さまざまな方のご尽力により、充実したものとなりました。帯同してくれた名和さんや二人のOB、そして矢吹先生には大変お世話になりました。また、大宮東高校の長谷川先生は嫌な顔一つせずケガ人の対応をしてくださりました。山梨の京水荘では、社長自らマイクロバスを運転してくださり、片道1時間もかかる会場もありながら、AチームとBチームの移動をすべて行って下さいました⁵。大変お世話になりました。ありがとうございました。

⁴ 偏食家2年マネのアサゴンこと加納マネも「当たり前の食事」ができるよう、遠征期間頑張りました。今野の厳重な監視の中、かなり魚にチャレンジしました (その様子もHP上でご確認ください)。

⁵ Aチームの第1試合と第2試合の会場が全く違った (遠く離れた) 3月31日などは、ほぼ一日ハンドルを握り続けたのではないのでしょうか。